ふれ愛・にしのうち

創刊号

太田西ノ内病院広報誌・創刊号
発　行／財太田綜合病院附属太田西ノ内病院
編　集／太田西ノ内病院広報委員会
発行日／平成13年1月20日
住　所／郡山市西ノ内2丁目5番20号　TEL(024)925-1188
ホームページ：http://www.ohta-hp.or.jp/

生命の尊厳と平等を 実践する病院づくり一筋に

財団法人太田綜合病院　理事長　太田緑子

新しい世紀の幕開けにふさわしい「ふれ愛・にしのうち」が創刊されますこと、まことに時宜を得たものと大変慶ばしく思います。

福島県・県中の中核病院としての責任を果たすべく日々努力を重ねている太田西ノ内病院ではありますが、ご利用下さっている患者さんや、地域の方々に真の姿をお知らせすることも私どものつとめでもあります。しかし、この点に関しては残念ながら未だ道遠しの感があります。

余りにもマンモス施設となり、早急にお知らせすべき重要な案件でも、内部の職員さえも良く分からないことが多い現状でございます。

加えて患者さんを通して、地域の方々の健康増進に協力し合う診療所・医院、そして病院のドクターをはじめ医療福祉のスタッフが相互理解を深め、信頼のうえに立って選択して頂くことが当法人の願望でございます。

過ぎし19世紀に創設者・太田三郎が生命の尊厳と平等を実践する病院づくりに生涯を懸け、地域の医療福祉の充実をはかるためには、よき政治・経済が必要と考え、その領域にまで参画しました。

現在の西ノ内病院の土地は、昭和8年頃、結核患者さんのための病院開設を考え、医師会の方々の協賛を得て用意したものでした。しかし、地元の反対で実現不可能となり、やむなく農地として利用せざるを得ませんでした。その後、辰雄理事長が結核患者さんの退院後のアフターケアのために農業、養豚、養鶏等々の場として使用してきた経緯があります。昭和50年、安積町にあった内科・精神科を主とした「ささはら病院」をこの地に移転。その後は、精神科の患者さんの作業療法の場として活用しておりました。

中町の本院が手狭となったことや、救急医療・高度医療の将来を考慮し、西ノ内地区に総合医療施設を開設するプランを立て、これが実現してから13年になりました。

現在、第四期整備をすすめておりますが、21世紀における使命を果たすべく、内容のレベルアップのため救急外来診療室や病棟等が、平成14年春には完成する予定であります。

三郎・辰雄がめざした医の原点を一筋に貫き、時代を先取りした施設、内容に整えたいと考えての106年目になります。

なお医学・医術の進歩と共に、豊かな人間性、真の愛を育む人材への心くばりに努めていきたいと思っており、それが私に課せられた役割であると自分に言い聞かせております。

医療・福祉が人類の幸せを支える大きなファクターであることを自覚し21世紀の嵐にもめげず進み続けるためにも、「ふれ愛・にしのうち」が皆様のお役に立つことを切に願って創刊の慶びといたします。

太田西ノ内病院広報誌
「ふれ愛・にしのうち」の発刊に当たって

財団法人太田綜合病院附属太田西ノ内病院　病院長
太田保世

このほど漸く、太田西ノ内病院の「広報誌」をお届けできることになりました。遅きに失した感もありますが、充実した内容で高度情報化時代のニーズに応える努力をいたしますので、ご支援のほどをお願い申しあげます。

私は昨年4月に太田西ノ内病院長に着任いたしましたが、その時、病院職員へのメッセージとして、「私たちの太田西ノ内病院は、コミュニティ型病院をめざし続ける」と申しました。「コミュニティ型病院」という言葉は、さまざまな意味をもっています。コミュニティは地域社会と訳されていますから、地域住民の皆様のために、人間愛という平等の理念の下に、医療や福祉を通じて貢献する病院ということです。しかもそのためには、地域の皆様に信頼され、選択される病院という意味も含みます。信頼され、選択されるためには、病院のあらゆる面での機能や質の高さを維持していく努力を必要とすることを意味します。一般社会での動きと同じに、太田西ノ内病院が情報開示にいち早く踏み切った理由もそこにあります。私たちが、私たちの病院の情報を正しく外部に向かって発信することも、情報開示の重要な一部分だと考えたのです。そのためには、太田綜合病院のホームページを充実する努力もしています。ホームページによって最新の医療を学べるような工夫もしています。

しかし、「コミュニティ型病院」という言葉のもつ最も重要な意味は、地域社会（コミュニティ）は地縁社会のような、すでに昔からそこにあるといった、受動的な存在概念ではなくて、「自らが創造し、実践していく社会」という、能動的な形成概念であることです。そのためには、地域住民の皆様はもとより、行政機関、他の医療機関や医師会、地域の実業界、情報通信機関などと広く連携をとって、新しい、拓かれたコミュニティの創造に向かって努力するという意味を含みます。私たちはそのような理念をもって進みます。

最近、「21世紀は再びこころの問題に立ち返るべき時代だ」と、一部の有識者が発言されるようになりました。それにもさまざまな意味があります。自然科学としての大脳生理学者も、「こころ」とは何かを研究し始めましたし、哲学者は、近世までは総合科学として存在した哲学の復権が「こころ」の問題の解決になると言いますし、宗教家は、「生と死」について深く考えることを忘れた人類（日本人）に警鐘を鳴らしています。私もそのように考えています。特に医学、医療は、誤った近代科学主義に囚われてはなりません。その意味では、太田西ノ内病院は「地域ふれ愛、こころの医療」という言葉を掲げます。

ヒポクラテスの木（正面玄関前）

平成3年に植樹されたヒポクラテスの木（プラタナス）も世紀を越えて成長し続けています。

太田西ノ内病院は、今世紀、「地域ふれ愛、こころの医療」をテーマに「コミュニティ型病院」をめざし続けます。

診療科紹介

消化器科

最近は医学の細分化、専門化が進み患者さんも自分の受診したい科が何科なのか分からない事も多いと思います。消化器科は病院によっては胃腸科と名乗っている所も多いかと思います。名前のとおり胃と腸の病気を扱うことが多いのですが、これに加えて肝臓、胆嚢、膵臓の病気も担当しますので消化器科と呼ぶのが適切かと思います。受診する患者さんの具体的な症状としては腹痛、悪心、嘔吐、吐血、食欲不振、便通異常（下痢、便秘）、血便、全身倦怠感、体重減少、検診で異常を指摘されての精密検査などが挙げられます。患者さんが受診しますと、まず問診を受けます。次に診察（視診、打聴診、触診、肛門指診）となります。ここまでである程度の診断と疑われる疾患を推測し、次に必要な検査を予定することになります。当院で可能な主な検査について述べさせていただきます。

【1】消化管透視
（バリウムを使用した食道・胃レントゲン検査、大腸レントゲン検査）

【2】内視鏡検査
（上部消化管内視鏡いわゆる胃カメラ、下部消化管内視鏡）

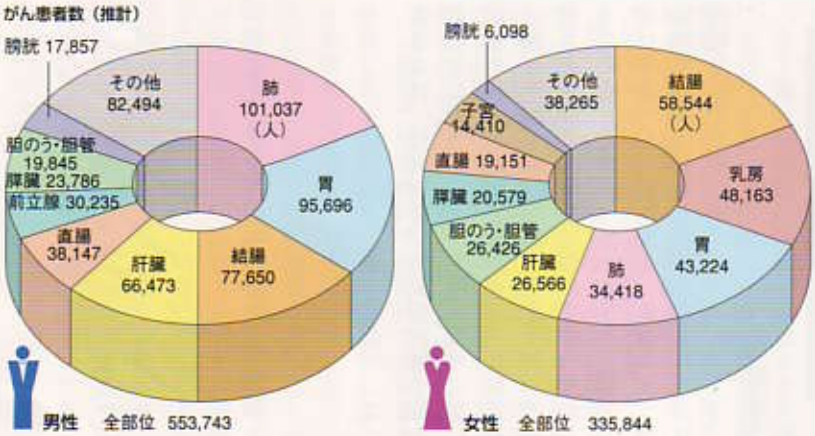
【3】腹部エコー
（肝胆膵腎のスクリーニングと精査に汎用されます。）

【4】CT computed tomography
（レントゲンを使用した断層写真です。）

【5】MRI
（核磁気共鳴画像）

これらの検査を駆使して病気を診断しています。

現在日本人の死因の第一位は悪性腫瘍ですが、左の図を見ていただけるとわかりますが消化器系の癌がかなりの割合を占めています。当然我々の科で扱う病気も癌が多くなります。医学が進歩した現在でもやはり早期発見・早期治療が大事なことに変わりはありません。かつては治療は外科手術が第一選択でしたが、現在食道・胃・大腸の早期癌は内視鏡的粘膜切除術（EMR）が広く行われるようになり、患者さんにとって大きな福音となっています。また急速に増えた肝癌もその原因の多くがウィルス性と分かり早期発見が可能となりました。当院では、小さな肝癌は手術せず、エタノール注入療法（PEIT）、マイクロウェーブ凝固療法（MCT）で治療してきましたが、さらに最近ではラジオ波凝固療法（RFablation）という優れた治療法も開発され早速取り入れています。詳しいことは太田綜合病院のホームページで紹介していきたいと思います。次にメンバーを紹介します。



迎　愼二

消化器科部長。太田綜合病院に赴任して13年のベテラン？医師。消化器領域全般なんでもやさんだが、本来はウィルス性肝炎が専門。外見は怖いが心はやさしい!?

渡邊　茂

消化器科医長。中堅というよりもはやベテランの域に達しつつあるか？A型らしく常に完璧な医療を目指す青年医師。テクニシャンである。女性患者さんにファンも多い。

新澤　穣太郎

卒後9年になりいよいよこれから脂のってくる青年医師。地元郡山出身で三児の父親でもある。朝は一番早く病院に現れる。いつも多忙で走り回っている。

高野　真

大学から派遣されてまだ一年、太田西ノ内病院の忙しさに慣れ徐々に実力を発揮してきた。温かい人柄で患者さん・看護婦さん両方から信頼を集めている。

星　奈美子

まだまだ駆け出しの新米医師だが小さな体にファイト一杯で押し寄せる難問・難題に立ち向かっている。日々進歩著しい独身女医さん。

以上の5名で診療にあたっているが、他に内科の菅野先生、武田先生、岩館先生、栗山先生が内視鏡、エコー、レントゲン透視検査に協力していただいている。いずれもすばらしい先生方であり患者の皆さんはどうぞ安心して診療を受けてください。解からない事がありましたら遠慮なくお聞きください。

新澤穣太郎　渡邊　茂　高野　真　迎　愼二
星　奈美子　大石美裕紀（研修医）

西ノ内見聞録

ここでは、西ノ内病院の各病棟・外来・その他さまざまな部署に潜入し、その全容にせまってみたいと思います。

17病棟

環境の良さを心の癒しに

17病棟は、太田西ノ内病院で一番高い所（7階）にある病棟です。

そのため、眺めも良く、北にはあだたら、南に郡山市の町並が一望でき、四季おりおりの眺めが楽しめます。また、郡山市の開成山で行なわれる花火大会もきれいに見え、知られざる見物名所ではないかと思います。

これらの環境の良さは、入院中の患者さんの心の癒しに十分役立っているようです。

現在17病棟に入院していらっしゃる患者さんは、外科および泌尿器科で手術を目的とした方々です。外科は胃や大腸に疾患を持った患者さんが多く、泌尿器科は膀胱や前立腺、腎臓に疾患を持った患者さんが多く入院しております。そのような患者さん方が一日でも早く退院して頂けるように、医師20名、看護スタッフ30名で最高の知識と技術とやさしさで日夜努力しております。

（熊田市子）

病棟からの風景

17病棟スタッフ

内科外来

思いやりの心で

内科外来は、一般内科をはじめ9つの診療科に分かれています。患者さんは、一日約600名位来院しており、当院の外来総数の約3分の1以上を占めております。生活習慣病や悪性疾患の増加に伴い、年々増えている状況です。

〈待ち時間に関して〉

受付から診療までの時間は、30分から3時間と幅が広く、患者さんの数や状況によって異なっています。診察順番は受付票の番号となっており、テレビモニターに診療順番が表示されております。

〈予約診療に関して〉

糖尿科、循環器科、消化器科は予約診療を実施しています。予約診療制が導入となってから、1～2時間の待ち時間の短縮が図られたという結果が出ました。しかし、予約時間通りに診察ができない事が多いのが現状です。さらに、新患や具合いの悪い患者さん等の対応もあり、待ち時間の改善は難しくなっております。いろいろな課題はありますが、少しでも改善できるように検討を重ねていきたいと思います。待ち時間は長かったが受診して良かったと思っていただけるような外来を目指して、やさしさと、思いやりのある心を持って取り組んでいきたいと思います。尚病気や健康について、御相談や、その他御意見がありましたら、お気軽にお話し下さい。

〈受診する診療科がわからない場合〉

正面玄関を入り左手に、診療案内の婦長がおりますのでお気軽におたずね下さい。

（吉沢京子）

内科待合室

内科外来スタッフ

くすりの広場①

「正しい薬の飲み方」

皆さんは薬とうまく付き合っていますか。「クスリ」は正しく使用してはじめて薬としての作用が期待できますが、誤った使い方をすると思わぬ「リスク（危険）」が発生することがあります。では、正しく使用するために、どのような点について注意しなければならないのでしょうか。もちろん1つ1つの薬について知ることは大切ですが、〝薬そのものの使い方の基本を知る〟ことも大事です。そこで、ここでは薬についての豆知識を毎回取り上げて行きたいと思います。つまり、「薬とうまく付き合って行くためのコツ」をまとめようと思います。

今回は、「正しい薬の飲み方」について紹介します。薬はコップ1杯の水（または白湯）で飲みましょう。決して水なしで飲めることは自慢になりません。薬を胃まで到達させるために、そして錠剤やカプセルを完全に溶かすために、コップ1杯の水が必要なのです。写真は、カプセル剤を一口程度の水で飲んだときに食道に引っかかってしまったものです。やはり、完全に胃の中に流し込むためにも、ゴクゴクと最後に水を飲みましょう。ただし、主治医から水分摂取制限を指示されている場合は例外です。その場合は、主治医か薬剤師に薬の飲み方を相談してください。

（朝倉俊成）

検査あらかると

はじめまして、臨床検査部です。病院スタッフの中でも「縁の下の力持ち」的存在で、なかなかお目にかかる機会が少ない部門ですが、誰しも何らかの形で一度は「検査」というものを受けた経験をお持ちではないでしょうか。ある時は採血をされたり、尿を取ってきてくださいと言われたり、心電図をとられてみたりと、一言に「検査」といっても実に幅広い分野が含まれています。このコーナーでは今後当院の検査業務の紹介や検査項目のお話を載せていきたいと思っています。

さて臨床検査は心電図や脳波などの様に患者さん自身が対象になる「生理機能検査」、血液や尿など患者さんから得られる検体を調べる「検体検査」の二つに大別されます。今では医療機器も進歩し、「検体検査」に関してもより少ない検体量で、迅速かつ的確なデータを出せるようになってきています。しかし「より正確な検査結果」が得られるために最も重要なもの、それは患者さん自身の協力です。

「検査」はその時々の体内での状態を反映したものであり、様々な要因によって影響を受けます。例えば食事をとることによって血糖や中性脂肪などは高くなってしまいます。事前に検査をする事が分かっているような場合、もっとも適切な状態で検査を受けていただくこと、それが「より正確な検査結果」が得られるためのこつです。そのためには医師や医療スタッフの説明をしっかり聞いてちゃんと守っていただくこと!!が大切ですね。

（佐藤雅子）

彩食健美

◆白菜のクリーム煮

材料（1人分）

白　菜……2枚
海　老……60g
しめじ……30g
ベーコン……1枚
グリンピース（冷凍）……10g
固形スープの素……1／4個
牛　乳……200cc
生クリーム……大さじ2
サラダ油・バター・塩・こしょう

【エネルギー　330kcal】

作り方

①白菜は葉先はざく切り・芯の部分はそぎ切りにする。

②しめじは石づきを切り、ベーコンは3cm幅に切る。海老は、背ワタをとり、グリンピースは熱湯に通す。

③鍋にサラダ油・バターを各少々入れて熱し、白菜・ベーコンをしんなりするまで炒める。しめじと海老を加え、さっと炒める。

④牛乳を加え、煮立ったら固形スープの素を入れ弱火にし、白菜が軟らかくなったら塩・こしょうで味を調える。最後にグリンピースを加える。

野菜の旬と人間の代謝生理はぴたりと一致していることは、ご存じですか。

冬が旬の野菜は身体を温め、夏の野菜は身体から暑気を逃がしてくれます。〝旬のおいしさ〟は舌が感じるだけのものではなく、身体が自然に必要とするからこそ感じるものなのです。

今回は、冬の代表的な葉野菜である白菜の料理を紹介します。白菜は、ビタミンCが豊富で冬の風邪予防にも、もってこいの野菜です。甘みがある、みずみずしい白菜とプリッとした海老のクリーム煮はいかがでしょうか。

オープンシステム 情報ネットワーク

太田西ノ内病院では、患者さんに質の高い医療を受けていただくために、開業医の先生方と連携をむすんでいます。
ここでは、太田西ノ内病院オープンシステムの登録医療機関、登録医師のご紹介をしていきます。

てちがわら内科・さくら訪問看護ステーション

所 在 地／〒963−8034 郡山市島1丁目17−3
電　　話／〈外　　来〉024−991−1177
　　〈デイケア〉024−991−6655
F A X／024−991−1178
診 療 科／循環器科・内科・消化器科・呼吸器科
休 診 日／日曜・祝祭日
診療時間／月曜〜金曜日：午前9時〜正午
　　午後2時〜6時
　　土曜日：午前9時〜正午
　　午後1時〜3時
病 床 数／無　床
往診・訪問診療／あり
　　「さくら訪問看護ステーション」併設

院長　鉄地川原　正顕

昭和48年　福島県立医科大学卒業、同大学附属病院で研修
昭和53年3月　ガーナ大学で研究
昭和55年　福島県立医科大学附属病院勤務
昭和58年　東京女子医科大学　心臓血圧研究所で研修
昭和60年3月　(財)太田綜合病院太田西ノ内病院勤務
平成10年2月　てちがわら内科　開業

鉄地川原先生（前列中央）とスタッフのみなさん

医院全景

登録医から

日本はいよいよ高齢化社会に突入し、2005年には国民5人に1人、2015年には4人に1人が高齢者になると予測されています。超高齢化社会に入り、医学医療に構造転換が迫られた結果、病気の治療（生命維持）という今までの医療と高齢者を中心とした要介護状態の予防及び改善、死のみとりという2つの課題に対処する必要が出てきました。介護保険が導入され、在宅医療が必要とされている所以です。

当診療所は訪問看護ステーション、通所リハビリテーション施設、指定居宅介護支援事業所を併設し、在宅医療に重点を置いています。医療基盤は診療所ですが入院の必要ある患者さんは太田西ノ内病院に依頼して参りました。訪問看護ステーションは24時間体制で患者さんが安心して暮らせるよう応援しています。通所リハビリテーションでも多くの患者さんが自身の努力により、機能が改善され、その意義は大変大きいと考えています。

「医療の主体は患者さんである」と考える時、これからの医療の理念は患者さんへの医療啓蒙、情報開示を怠らないこと、評価される医療機関になること、高度先進医療、在宅医療を必要に応じて提供すること等であると思っています。

櫻田内科胃腸科医院

医院全景

櫻田先生（右端）とスタッフのみなさん

所 在 地／〒963−8875 郡山市池ノ台3番1号
電　　話／024−939−3399
Ｆ Ａ Ｘ／024−939−3360
E-mail ／sakuradam@e-sense.ne.jp
診 療 科／内科・胃腸科
休 診 日／日曜・祝祭日
診療時間／月曜〜金曜日：午前8時〜正午
　　午後2時〜6時
　　土曜日：午前8時〜正午まで
病 床 数／無床
往診・訪問診療／あり

院長　櫻田幹夫

昭和54年　東北大学医学部卒業し公立気仙沼総合病院で研修後
昭和61年3月まで東北大学医学部第三内科に所属
昭和61年4月〜昭和63年4月
（財）太田綜合病院付属太田西ノ内病院勤務
昭和63年5月〜
堂前町　櫻田内科胃腸科医院　開業
平成9年5月〜
現在地（池ノ台）に新築移転

登録医から

いつも病診連携で親切に対応していただき患者さん共々喜んでおります。

職場の健康診断や基本検診で糖尿病の疑いのある患者さんが多く見つかるようになり、中には、何年も放置したままの人もいます。このような患者さんを診るとき、将来合併症で不自由な生活を送ることにならないよう、時間をかけて食事療法から指導しています。

現在の診療所に移転したときに阿部隆三先生をはじめ太田西ノ内病院の糖尿病センターの先生方や栄養科の先生方に当院の管理栄養士の指導をしていただきありがとうございました。おかげさまで毎日、外来の栄養指導に追われています。今後、地下の運動指導室を生かしながら、地域の皆様の健康増進のために新しい栄養指導の方法や運動指導に力を入れたいと考えています。

地域医療連携室

より質の高い医療を提供できるよう

当院では、平成十一年九月一日付で県より開放型病院の許可を得て、地域の先生方に登録医になっていただき、登録医の医師と病院の主治医が、共同診療を行なえる体制を導入しました。病診連携とは、日頃の健康管理は近くの医療機関（診療所・医院）で診療を受け、専門的な治療が必要と主治医が判断した場合には、高度な医療設備や人員などを備えている病院へ紹介していただき、地域の医療機関と病院が連携をとって患者さんにベストの医療を提供することです。

今年七月より「病診連携室」を「地域医療連携室」と改め、担当者も一名から四名に増員となりました。地域の医療機関と病院が機能を分担し、連携を深め、協力体制づくりを行い、より質の高い医療を提供できることを目指し、患者さんに対しては、安心して検査や治療が受けられるように、関わっていきたいと思います。

恒例のクリスマスコンサート開催

平成十二年十二月二十二日（金）午後六時半より太田西ノ内病院本館一階エントランスホールにて二〇世紀最後となるクリスマスコンサートが華やかに開催されました。

コンサートはナイチンゲール生誕を思わせるかのような看護婦によるキャンドルサービスで始まりました。キャンドルの灯りを手に、エスカレーターから降りてくる姿は、クリスマスツリーの灯りと一体になり、まるで大地に舞い降りる天使のようでした。その後保育園園児による「クリスマスのよる」他2曲の合唱、続いて職員有志による薄井信介医師のピアノ演奏を中心に3曲と郡山市民合唱団による「きよしこのよる」「神の御子は」他4曲が合唱されました。

コンサートの最後には恒例となったサンタに扮した職員からの入院中の子供たちへのプレゼントが行われ、クリスマスプレゼントを手にした子供たちはあふれんばかりの笑みをうかべていました。

開催に際しては郡山市民合唱団／聖マリアージュ教会／郡山ビューホテルの皆様にご協力いただきました。

エントランスホールで開かれたクリスマスコンサート

21世紀の金星誕生！

時代は遂に、21世紀に突入しましたが、その幕明けとなる2001年1月1日に、当院では、3名の新しい生命が誕生しました。

今回は、その中から「高橋祐太くん」のお父さんにお話を伺いました。

Q 生まれた時の率直な感想は？

無事に生まれてホッとしました。

Q 1月1日というのは計画的だったのですか？

決して狙ったわけではありません。

Q 名前は、どちらがつけられたのですか？

私の父が考えてくれました。私も気に入ったのでこの名前にしました。

Q どんな子どもに育てたいとお考えですか？

健康でさえあればそれで十分です。

データ

高橋祐太くん

- ●2001年1月1日 9時18分生まれ
- ●体重2860g
- ●父：高橋秀征さん
  母：高橋ちづるさん

祐太くんとお母さん

予定日は、1月3日だったそうですが、1月1日を選んで生まれてくるあたりは、並の人物ではありません。将来はきっと、金星のように光り輝くことでしょう。

本当におめでとうございます。

編集後記

新しい世紀を迎えて、職員の皆様のご協力により太田西ノ内病院の広報誌を発刊する運びとなりました。太田緑子理事長並びに太田保世病院長の挨拶にもありましたように、地域の皆様と連携して21世紀に合った病院の創造に向かって努力したいと考えております。

医療におけるサービスとは、心安らぐ医療を安全で質の高い基準での標準に基づいた技術をもって笑顔で提供することです。このような医療姿勢をこれからの広報誌に内容一杯に表していくべく広報委員一同がんばりますのでご協力宜しくお願い致します。

なお、病院の医療姿勢を表すような広報誌のタイトルを職員の皆様より募集いたしましたところ、多数応募頂きました。その中からリハビリ科中嶋健起さんの〝ふれあい西ノ内〟を題字のように換えて採用させていただきました。さらに、題字を常任理事佐々木幹人先生にお書き頂きました。ありがとうございました。

（佐久間秀夫）

太田西ノ内病院広報委員会

委員長　佐久間秀夫
委　員　吉成　妙子・遠藤めぐみ
　　朝倉　俊成・後藤　桂子
　　佐藤　雅子・荒川　幸徳
　　木原　均・久下　薫
　　佐藤　浩徳（幹事）